



コンソールアクセスの設定

- [Cisco Catalyst 8000V を VM として起動 \(1 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 8000V コンソールへのアクセス \(3 ページ\)](#)

Cisco Catalyst 8000V を VM として起動

VM の電源がオンになると Cisco Catalyst 8000V が起動します。設定に応じて、仮想 VGA コンソールまたは仮想シリアルポート上のコンソールでインストールプロセスをモニターできます。



(注) 仮想 VGA コンソールの代わりにハイパーバイザのシリアルポートから Cisco Catalyst 8000V にアクセスして設定する場合は、VM の電源をオンにしてルータを起動する前に、この設定を使用するよう VM をプロビジョニングする必要があります。

ステップ 1 VM の電源を入れます。VM の電源投入後 5 秒以内に、次の 2 つのステップ (ステップ 2 または 3) のいずれかで説明したコンソールを選択し、ルータのブートアップを表示して Cisco Catalyst 8000V CLI にアクセスします。

ステップ 2 (オプション) **Virtual Console** を選択します

仮想コンソールの使用を選択した場合、この手順の残りのステップは適用されません。Cisco Catalyst 8000V は、5 秒以内に他のオプションを選択しない場合、仮想コンソールを使用して起動します。Cisco Catalyst 8000V インスタンスがブートプロセスを開始します。

ステップ 3 (オプション) **Serial Console** を選択します

VM で仮想シリアルポートコンソールを使用するには、このオプションを選択します。

このオプションを機能させるには、仮想シリアルポートが VM にすでに存在する必要があります。

(注) ブートプロセス中にコンソールポートを選択するオプションは、Cisco Catalyst 8000V の初回起動時にのみ使用できます。Cisco Catalyst 8000V の初回起動後にコンソールポートアクセスを変更するには、[インストール後のコンソールポートアクセスの変更 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

Cisco Catalyst 8000V がブートプロセスを開始します。

ステップ 4 `telnet://host-ipaddress:portnumber` または `telnet host-ipaddress portnumber` (UNIX xTerm 端末から) 2つのコマンドのいずれかを使用して、VM に Telnet 接続します。次の例は、VM での Cisco Catalyst 8000V 初期ブート出力を示しています。

システムは最初に SHA-1 を計算します。これには数分かかる場合があります。SHA-1 が計算されると、カーネルが起動します。初期インストールプロセスが完了すると、.iso パッケージファイルが仮想 CD-ROM から削除され、VM がリブートされます。これにより、Cisco Catalyst 8000V が仮想ハードドライブから正常に起動できるようになります。

(注) システムは、初回インストール時にのみ再起動します。

Cisco Catalyst 8000V の起動に必要な時間は、使用するリリースとハイパーバイザによって異なる場合があります。

ステップ 5 起動後、メインのソフトウェアイメージおよびゴールデンイメージと、強調表示されたエントリを 3 秒以内に自動的に起動する手順を示す画面が表示されます。ゴールデンイメージのオプションを選択せず、メインのソフトウェアイメージを起動させます。

(注) Cisco Catalyst 8000V には、シスコの多くのハードウェアベースのルータに含まれている ROMMON イメージは含まれていません。インストール中、インストールされたバージョンのバックアップコピーがバックアップパーティションに保存されます。このコピーは、ブートイメージをアップグレードした場合、元のブートイメージを削除した場合、または何らかの理由でディスクが破損した場合に、起動元として選択できます。バックアップコピーからの起動は、ROMMON から別のイメージを起動することと同じです。GRUB モードにアクセスするための構成レジスタの設定変更の詳細については、[GRUB モードへのアクセス](#)を参照してください。

これで、標準コマンド `enable`、`configure terminal` の順に入力して、ルータ設定環境を開始できます。

Cisco Catalyst 8000V インスタンスを初めて起動するとき、ルータが起動するモードはリリースバージョンによって異なります。

サポートされているスループットと機能を取得するには、ソフトウェアライセンスをインストールするか、評価ライセンスを有効にする必要があります。リリースバージョンに応じて、ブートレベルを有効にするか、最大スループットレベルを変更して、Cisco Catalyst 8000V を再起動する必要があります。

インストールされているライセンス テクノロジー パッケージは、`license boot level` コマンドで設定されたパッケージレベルと一致している必要があります。ライセンスパッケージが設定と一致しない場合、スループットは 100 Kbps に制限されます。

(VMware ESXi のみ) .iso ファイルを使用して VM を手動で作成した場合は、基本的なルータプロパティを設定する必要があります。Cisco IOS XE CLI コマンドを使用するか、vSphere GUI でプロパティを手動で設定できます。

Cisco Catalyst 8000V コンソールへのアクセス

仮想 VGA コンソールからの Cisco Catalyst 8000V へのアクセス

Cisco Catalyst 8000V ソフトウェアイメージをインストールする場合、使用する設定は仮想 VGA コンソールです。次の場合、仮想 VGA コンソールから Cisco Catalyst 8000V CLI にアクセスするために他の設定を変更する必要はありません。

- 起動プロセス中にコンソール設定を変更しないでください
- VM 設定に 2 つの仮想シリアルポートを追加しないでください。これは、自動コンソール検出を使用している場合に適用されます。

仮想シリアルポートを介した Cisco Catalyst 8000V へのアクセス

仮想シリアルポートを介した Cisco Catalyst 8000V へのアクセスの概要

デフォルトでは、仮想 VGA コンソールを使用して Cisco Catalyst 8000V インスタンスにアクセスできます。自動コンソール検出を使用して、2 つの仮想シリアルポートが検出された場合、Cisco Catalyst 8000V CLI は最初の仮想シリアルポートで使用できます。

シリアルコンソールを使用するように VM を設定することもできます。シリアルコンソールは常に Cisco Catalyst 8000V CLI の最初の仮想シリアルポートの使用を試みます。ハイパーバイザ上に仮想シリアルポートを設定するには、次の項を参照してください。



(注) Citrix XenServer は、シリアルコンソールを介したアクセスをサポートしていません。

VMware ESXi でのシリアルコンソールアクセスの作成

VMware vSphere を使用して次の手順を実行します。詳細については、VMware vSphere のマニュアルを参照してください。

ステップ 1 VM の電源をオフにします。

ステップ 2 VM を選択し、仮想シリアルポートを設定します。

- a) [Edit Settings] > [Add] の順に選択します。
- b) [Device Type] > [Serial port] の順に選択します。[Next] をクリックします。
- c) [Select Port Type] を選択します。
[Connect via Network] を選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 3 [Select Network Backing] > [Server (VM listens for connection)] を選択します。

次の構文を使用して [Port URI] を入力します。

```
telnet://:portnumber
```

ここで、*portnumber* は仮想シリアルポートのポート番号です。

[I/O mode] で、[Yield CPU on poll] オプションを選択し、[Next] をクリックします。

ステップ 4 VM の電源を投入します。

ステップ 5 VM の電源がオンになったら、仮想シリアルポート コンソールにアクセスします。

ステップ 6 仮想シリアルポートのセキュリティ設定を行います。

- a) 仮想シリアルポートの [ESXi host] を選択します。
- b) [Configuration] タブをクリックし、[Security Profile] をクリックします。
- c) [Firewall] セクションで、[Properties] をクリックし、次に [VM serial port connected over Network] の値を選択します。

これで、Telnet ポート URI を使用して Cisco IOS XE コンソールにアクセスできるようになります。仮想シリアルポートを設定すると、VM の仮想コンソールから Cisco Catalyst 8000V にアクセスすることはできなくなります。

(注) これらの設定を使用するには、Cisco Catalyst 8000V のブートアップ中に GRUB メニューの **Auto Console** オプションまたは **Serial Console** オプションを選択する必要があります。仮想 VGA コンソールを使用して Cisco Catalyst 8000V ソフトウェアをすでにインストールしている場合は、Cisco IOS XE **platform console auto** コマンドまたは Cisco IOS XE **platform console serial command** のいずれかを設定し、仮想シリアルポートを介したコンソールアクセスが機能するように VM をリロードする必要があります。

KVM でのシリアルコンソールアクセスの作成

サーバーの KVM コンソールを使用して、次の手順を実行します。詳細については、KVM のマニュアルを参照してください。

ステップ 1 VM の電源をオフにします。

ステップ 2 デフォルトの [Serial 1] デバイス（存在する場合）をクリックし、[Remove] をクリックします。これにより、最初の仮想シリアルポートとしてカウントされるデフォルトの `pty` ベースの仮想シリアルポートが削除されます。

ステップ 3 [Add Hardware] をクリックします。

ステップ 4 [Serial] を選択して、シリアルデバイスを追加します。

ステップ 5 [Character Device] で、ドロップダウンメニューから [TCP Net Console (tcp)] デバイスタイプを選択します。

ステップ 6 [Device Parameters] で、ドロップダウンメニューからモードを選択します。

ステップ 7 [Host] で、**0.0.0.0** と入力します。サーバーは、任意のインターフェイスで Telnet 接続を受け入れます。

ステップ 8 ドロップダウンメニューからポートを選択します。

ステップ 9 [Use Telnet] オプションを選択します。

ステップ 10 [Finish] をクリックします。

これで、Telnet ポート URI を使用して Cisco IOS XE コンソールにアクセスできるようになります。詳細については、[仮想シリアルポートでの Cisco Catalyst 8000V コンソールへの Telnet セッションの開始 \(5 ページ\)](#) を参照してください。

(注) これらの設定を使用するには、Cisco Catalyst 8000V の起動中に GRUB メニューの **Auto Console** オプションまたは **Serial Console** オプションを選択する必要があります。仮想 VGA コンソールを使用して Cisco Catalyst 8000V ソフトウェアをすでにインストールしている場合は、仮想シリアルポートを介したコンソールアクセスを機能させるために、Cisco IOS XE **platform console auto** コマンドまたは **platform console serial** コマンドを設定し、VM をリロードする必要があります。

仮想シリアルポートでの Cisco Catalyst 8000V コンソールへの Telnet セッションの開始

Cisco IOS XE CLI コマンドを使用して、次の手順を実行します。

ステップ 1 VM に Telnet 接続します。

- 次のコマンドを使用します。 **telnet://host-ipaddress:portnumber**
- または、UNIX 端末から次のコマンドを使用します。

```
telnet host-ipaddress portnumber
```

ステップ 2 Cisco Catalyst 8000V IOS XE パスワードプロンプトで、ログイン情報を入力します。次に、*mypass* というパスワードを入力する例を示します。

例：

```
User Access Verification
Password: mypass
```

(注) パスワードが設定されていない場合は、**Return** を押します。

ステップ 3 ユーザー EXEC モードで、次のように **enable** コマンドを入力します。

例：

```
Router> enable
```

ステップ 4 パスワードプロンプトに、システムパスワードを入力します。次に、*enablepass* というパスワードを入力する例を示します。

例：

```
Password: enablepass
```

ステップ 5 イネーブルパスワードが許可されると、特権 EXEC モードプロンプトが次のように表示されます。

例：

Router#

ステップ 6 これで、特権 EXEC モードの CLI へのアクセスが可能になりました。必要なコマンドを入力して、必要なタスクを実行できます。

ステップ 7 Telnet セッションを終了するには、次の例のように **exit** または **logout** コマンドを使用します。

例 :

Router# **logout**

インストール後のコンソールポートアクセスの変更

Cisco Catalyst 8000V インスタンスが正常に起動したら、Cisco IOS XE コマンドを使用して、ルータへのコンソールポートアクセスを変更できます。コンソールポートアクセスを変更した後は、ルータをリロードするか、電源を再投入する必要があります。

ステップ 1 enable

例 :

Router> enable

特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

ステップ 2 configure terminal

例 :

Router# configure terminal

グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 3 次のいずれかを実行します。

- **platform console virtual**
- **platform console serial**

例 :

Router(config)# platform console virtual

例 :

Router(config)# platform console serial

platform console x のオプション :

- **virtual** : ハイパーバイザの仮想 VGA コンソールを介して Cisco Catalyst 8000V にアクセスすることを指定します。

- **serial** : VM のシリアルポートを介して Cisco Catalyst 8000V にアクセスすることを指定します。

Note : このオプションは、ハイパーバイザがシリアルポートコンソールアクセスをサポートしている場合にのみ使用してください。

ステップ 4 **end**

例 :

```
Router(config)# end
```

コンフィギュレーションモードを終了します。

ステップ 5 **copy system:running-config nvram:startup-config**

例 :

```
Router# copy system:running-config nvram:startup-config
```

実行設定を、NVRAM スタートアップ設定にコピーします。

ステップ 6 **reload**

例 :

```
Router# reload
```

オペレーティングシステムをリロードします。

次のタスク

コンソールアクセスを設定したら、Cisco Catalyst 8000V ライセンスをインストールします。ライセンスをインストールして使用方法については、このガイドの「ライセンス」の章を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。